

第二課長

軍事秘録

参考

參拾部ノ内第8號

明治二十六年
制定

大本營編制

圖書印

昭和十九年八月十三日
大體參第三編作

279

0277

要 旨

一、大本營ハ明治二十六年五月十九日帝國軍戰時最高統帥部トシテ創

設セラル

註 右ニ至ル迄ハ

征討大將軍（戊辰戰爭ニ於ケル嘉仁親王）

東征大總督（戊辰戰爭ニ於ケル熈仁親王）

征討總督（佐賀ノ亂ニ於ケル嘉彰親王）
參軍山縣陸軍中將、伊藤海軍少將

臺灣事務總督（臺灣征討ニ於ケル西郷從道中將）
參軍谷陸軍少將、赤松海軍少將

征討總督（西南戰爭ニ於ケル熈仁親王）
參軍山縣陸軍中將、川村海軍中將

ノ如ク征討總司令官ニ征討ニ關スル統帥權ヲ委任セラレタリ

ニ大本營ノ創設ハ蓋シ日清戰役ノ作戰準備ノ重要要素トシテ豫想作戰規模ノ擴大、陸海軍兵力ノ増大ニ鑑ミ 天皇ノ大御下シ統帥部ヲ設置スルノ必要並戰時統帥組織ヲ制令化スルノ必要上創設セラレタルモノト認めラル

三本編制ハ明治二十七年六月五日日清開戦ニ先チ動員セラレ(宣戰布告ハ明治二十七年八月一日)明治二十九年三月三十一日復員セラル
大本營動員時ノ主要命課左ノ如シ

參謀總長 陸軍大將 有栖川宮 熾仁親王

陸軍上席參謀 陸軍中將 川上 操 六

海軍上席參謀 海軍中將 中牟田 倉之助

陸軍參謀

歩兵大佐

土屋光春

同

歩兵少佐

東條英教

兵站總監

陸軍中將

川上操六(兼)

兵站總監部

參謀長心得

歩兵少佐

田村怡與造

兵站總監部參謀

工兵少佐

山根武亮

同

同

福原信藏

砲兵少佐

村田惇

四、編制ノ特質左ノ如シ

1 簡素強力(陸軍參謀六、兵站參謀三)

2 全軍統帥ノ大綱裁定

3 陸海渾然一體 但陸主海從

4 人事ノ掌握

5 機動性

尙別ニ陸軍ニハ參謀本部、海軍ニハ海軍軍令部（昭和二十六年海軍軍令部獨立）アリ各々陸海兩軍毎ノ作戰ニ專念活動セリ

五 本編制ノ全機能發揮ハ日清戰役間約一年十月ニシテ曠古ノ勝利ヲ以テ創設ノ全目的ヲ達セリ而シテ日露戰爭ニ於テハ大本營内亦陸海軍部ニ截然區分セラレ新ナル編制ヲ以テ克ク戰爭目的ヲ達成セ

リ吾人ハ茲ニ國運ヲ堵スル大戰爭完遂ノ爲メ最高統帥部ノ編制機能ニ對シ戰爭準備ノ最高要素トシテ常ニ新情勢ニ立脚シ檢討セシ先人努力ニ對シ敬仰措ク能ハサルモノアリ

註 尙當時大本營力如何ニ活動セシヤハ秘史「隔壁隱談」一東

條英教監修）ニ詳ナリ